

観察した鳥類チェックリスト


- | | | | |
|-------------|------------|-----------|-----------|
| ★キジ目 | ★ツル目 | ★ハヤブサ目 | □ ツグミ |
| ・キジ科 | □ クイナ | ・ハヤブサ科 | □ ジョウビタキ |
| □ キジ | □ パン | □ チョウゲンボウ | ・スズメ科 |
| ★カモ目 | □ オオバン | □ ハヤブサ | □ スズメ |
| ・カモ科 | ★チドリ目 | ★スズメ目 | ・セキレイ科 |
| □ コブハクチョウ | ・チドリ科 | ・モズ科 | □ キセキレイ |
| □ オカヨシガモ | □ タゲリ | □ モズ | □ ハクセキレイ |
| □ ヨシガモ | □ ムナグロ | ・カラス科 | □ セグロセキレイ |
| □ ヒドリガモ | □ コチドリ | □ カケス | □ タヒバリ |
| □ マガモ | ・セイタカシギ科 | □ オナガ | ・アトリ科 |
| □ カルガモ | □ セイタカシギ | □ ハシボソガラス | □ カワラヒワ |
| □ ハシビロガモ | ・シギ科 | □ ハシブトガラス | □ アトリ |
| □ オナガガモ | □ タシギ | ・シジュウカラ科 | □ ウソ |
| □ コガモ | □ イソシギ | □ ヤマガラ | □ シメ |
| □ ホシハジロ | ・タマシギ科 | □ シジュウカラ | □ コイカル |
| □ キンクロハジロ | □ タマシギ | ・ヒバリ科 | ・ホオジロ科 |
| □ ミコアイサ | ・カモメ科 | □ ヒバリ | □ ホオジロ |
| ★カイツブリ目 | □ ユリカモメ | ツバメ科 | □ カシラダカ |
| ・カイツブリ科 | □ セグロカモメ | □ ツバメ | □ アオジ |
| □ カイツブリ | □ オオセグロカモメ | ・ヒヨドリ科 | □ オオジュリン |
| □ カンムリカイツブリ | ★タカ目 | □ ヒヨドリ | □ |
| □ ミミカイツブリ | ・ミサゴ科 | ・ウグイス科 | □ |
| □ ハジロカイツブリ | □ ミサゴ | □ ウグイス | □ |
| ★ハト目 | ・タカ科 | ・エナガ科 | □ |
| ・ハト科 | □ トビ | □ エナガ | □ |
| □ キジバト | □ チウヒ | ・メジロ科 | □ |
| ★カツオドリ目 | □ ツミ | □ メジロ | □ |
| □ カワウ | □ ハイタカ | ・ヨシキリ科 | (外来種や家禽) |
| ★ペリカン目 | □ オオタカ | □ オオヨシキリ | バリケン |
| ・サギ科 | □ ノスリ | ・セッカ科 | ガチョウ |
| □ ヨシゴイ | ★ブッポウソウ目 | □ セッカ | アヒル |
| □ ゴイサギ | ・カワセミ科 | ・ムクドリ科 | ドバト |
| □ アマサギ | □ カワセミ | □ ムクドリ | |
| □ アオサギ | ★キツツキ目 | ・ヒタキ科 | |
| □ ダイサギ | ・キツツキ科 | □ シロハラ | |
| □ チュウサギ | □ コゲラ | □ アカハラ | |
| □ コサギ | | | |

9

【9月のテーマ】

昔はいなかった生き物たち

案内人：小泉伸夫、弘實さと子（鳥の博物館市民スタッフ）





鳥の博物館開館以降、我孫子市で見られるようになった鳥たち
 ※印は、それ以降継続的に見られるようになった年代
 （鳥の博物館の調査やこれまで寄せられた情報を参考にしました）

昔はいなかった生き物

「この鳥、最近よく見かけるようになったな」とか「このチョウ、昔は見られなかったよな」など、昔の生物相とのちがいに気づいた経験はありませんか？
 こうした現象が見られる理由として、生物自身が分布域を拡大した場合や、人間が意図的に、または気づかぬまま他の地域の生物を運び込み定着させてしまった場合など、さまざま考えられます。
 今日、てがたんコースでそんな生物を探してみましょう。そして、今見られるようになった理由も考えてみましょう。

2017年9月9日（土）

てがたんコースで「昔みられなかった」代表的な生物

(注)和名の後の※印は、それ以降継続的に見られるようになった年代。蝶と植物は「てがたん」の記録、鳥は我孫子野鳥を守る会の記録を参考にしました。

蝶

人為的移入



アカボシゴマダラ(※2014年～)

中国南部など大陸原産のチョウ。人為的放蝶により関東平野を中心に定着。要注意外来生物。

温暖化? & 植栽?



ナガサキアゲハ(※2006年～)

日本では近畿以西で見られるチョウだったが、近年関東以北の地域でも観察されるようになった。

温暖化? & 植栽?



ツマグロヒョウモン(※2007年～)

ナガサキアゲハと同じく、日本では近畿以西で見られるチョウだったが、近年分布域が北上している。

人為的移入



オオフサモ(※2004年～)

南米原産の水草で、1920年代に観賞用として移入されたものが移出し全国に広がる。特定外来生物指定。

人為的移入



ナガエツルノゲイトウ(※2007年～)

南米原産の水草で観賞用として移入された後移出し1989年に国内定着が確認される。特定外来生物指定。

植物

下草繁茂?



繁殖期のウグイス(※1980年頃～)

昔から冬には見られる鳥であったが、繁殖するようになったのは1980年頃から。

市街地の樹木の生長?



エナガ(※1980年頃～)

エナガと同じように、コゲラやヤマガラもよく見られるようになったのは1980年頃から。

鳥

なぜ昔いなかった生物が新たに見られるようになったのか、その理由にはさまざまな要因が絡み合っています。

人が運び込んだこと(人為的移入)がはっきりしている場合を除き、要因を特定することは困難です。長期にわたる記録をもとに少しずつ理由が解明されていくかもしれません。

今回は、鳥の博物館が開館した頃からの変化を取り上げましたが、時代をさかのぼるともっと多くの新たに進出した生物が見つかります。